

広島レポート

田中邦子

松が丘二丁目

例年になく猛暑つづきの夏、八月四日、「非核宣言自治体全国大会」出席のため、新幹線「のぞみ」で、一路広島に向かった。たしか、東京〜広島間九時間という時代もあったけど、今は四時間足らずで広島に着く。

科学の進歩は著しい。科学者によって核が開発され、平和利用でなく兵器として使用されたことは、まことに残念なことです。

四日午後、一同で原爆資料館に行く。今迄広島に来て、一度も資料館にいったことはない。当時の惨状を思い出し、足がすくむ。でも皆様と一緒にだからと、思い切って入館しました。

駄目だ。体がぞくぞくし、寒気がする。投下の瞬間が鮮明によみがえる。よくぞこんな中から命拾いし、現在こうしているのが不思議な気さえする。

翌五日は午前中に、間野さん、久保さんと、母校広島市立高等女学校（現舟入高等学校）に車を走らせる。在校当時とは全く趣を異にする。でも四年間通学した学校、とても懐かしい。

年老いた守衛さんが、当時の校門の一部と、おおて（広島弁で堀のこと）の一部を保存してあると話して下さる。

爆心地から三キロの地点でもこんな惨状だったのかと驚く。

在学中、水泳に通った江波海岸にも行ってみた。家並がくつきそうだった狭い道も、今は車が通る。何もかも変わっている。七〇年間草木も生えないと言われた土地が、よくもこれだけ大都市になったものよ、と感心する。

午後は全国大会に出席。本島長崎市長、考古学者佐原真先生の有意義な話を聞き、核兵器廃絶のため一丸となつてあたろうと結束を約しました。

六日平和式典に参加。日差しが強く、四九年前を想い出す。式典の挨拶で村山首相が、援護法を避けたことは、まことに期待外れで残念でした。

この地球上に核があつてはいけません。我々人類をはじめとして、あらゆる生物が安心して生きてゆける世の中であることを、痛切に感じる旅でした。

親しい友人にも会うことが出来ました。

